



上京 史蹟と文化

美を語る

入江波光筆 摘草

昨年の夏、日本画家の入江西一郎さんが他界されました。ライオンや駱駝を描かれても、コアラやカンガルーを描かれても、あるいは、東南アジアの女性たちを描かれても、可愛らしく、おっとりとした情感の流れる作品で、年毎の日展や晨鳥社の塾展を楽しませていただきました。昨年は折しも、岡山県笠岡市の笠岡市立竹喬美術館において、「入江波光展」が開かれ、体調がよろしくないのに、その会場へ足を運ばれたと聞いていました。

西一郎さんは、入江波光のご長男で、同じ京都市立絵画専門学校で日本画を学ばれ、卒業されています。卒業時は太平洋戦争のさ中で、多くの学友と同様、西一郎さんも招集を受け、マレー半島に派遣されました。今日の私たちには、戦時中の事は、ほとんどが関心外のこととなっておりますが、西一郎さんには、遣されたマレー半島は、イギリス軍の本拠のあったインドと、中国・雲南省に通じる物資の補給ルート的重要な要衝に当たっていて、それを遮断するために西一郎さんたちの所属した部隊は派遣されたのです。これが後に、「白骨街道」と呼ばれて、日本軍の餓死者の山を築いたインパールだったのです。万を超える兵を送り込み、生還者は僅か数百名であつたといひます。西一郎さんの部隊は、西一郎さんも含めて、四名のみが生還したといひことです。西一郎さんは、生涯、自らの体験を語られたことはありませんでしたが、父君の波光は、親しい教職員に、戦死を予測し、もう還るまいと言っておられたようです。西一郎さんは、山口華楊の高弟でしたから、当然、花鳥画が得意のレパートリーであつたと思われませんが、好んで描かれたのは、東南アジアの色艶やかな民族衣裳の



美術史家

加藤 類子

女性たち、マンゴーなど熱帯の果物や花々、手長猿だったりしました。それを観るたびに、西一郎さんの心底に深く刻まれた青春時代の一時期、インパールの、誰にも語られない言語を絶する体験と、亡くなった多くの戦友への想いを私は想わずには居られませんでした。

終戦後、程なくして西一郎さんは京都へ帰還されました。そして、西一郎さんを待つていたのは、法隆寺金堂壁画の模写の仕事でした。この仕事は昭和十四年（一九三九）、文部省法隆寺壁画保存調査会が、壁画模写の実施を決め、翌昭和十五年（一九四〇）から開始していました。模写は四班に分けられ、入江光班の他は、東京の画家が分担しました。模写する壁画は籤引きで決められ、入江班は第六号大壁と第八号小壁を担当しました。

すでによく知られているように、法隆寺金堂は、昭和二十四年（一九四九）一月、失火によつて焼け、貴重な壁画は消亡してしまいました。これに先だつ昭和二十三年六月、波光は病没して、世紀の悲劇を自撃することはありませんでしたが、戦火すら免れた文化財が、模写事業を原因とした失火によつて失われたことを、模写に参加した人々は、どのような思いで聞いたことでしょうか。ましてや、かろうじて生還を果たした西一郎さんの心中は、どれ程の衝撃を受けたか、想像することも出来ません。さいわい、波光班の担当した模写は、仮表装のために室内から搬出されていて、焼失は免れました。多くの人々の記憶には、長く十円切手として使用された法隆寺金堂の観世音菩薩の御姿が残っているでしょう。入江波光班が模写を担当した第六号壁（阿弥陀浄土变相図）の脇侍、観世音菩薩と勢至菩薩の図から、観世音菩薩を選び、印刷したものでした。

さて、ここに掲げた図は、昭和三年（一九二八）第七回国展に出品された〈摘草〉です。作者は入江波光。日本古来の伝統行事、一月七日の若菜摘みを画題としています。現在私たちが受継いでいるのは、一月七日の七草粥でしょう。この作品が制作される六年前の大正十一年（一九二二）、入江波光は京都市から欧州視察を命じられ、菊池契月や中井宗太郎と共に、約一年の旅に出発しました。波光はイタリアに半年近く滞在し、イタリア・ルネッサンス期の絵画、中でもフレスコ画、ローマの古趾やポンペイ発掘趾などを見学、大いに心を動かされたようでした。滞欧中にも小さなサイズながら、フレスコ画やポンペイ時代の古画に見まがう作品を試みました。帰国後にも、この傾向が続きましたが、この〈摘草〉が最後例でしょうか。それ以降は、展覧会への出品も控えるようになりました。



入江波光筆 摘草 昭和3年(1928) 京都国立近代美術館蔵

〈摘草〉には、波光のヨーロツクバ見聞が色濃く反映されています。若草摘みに夢中になる三人の舞妓は、ヨーロツクバ宗教画の聖母子像を彷彿させますが、彼女らの足元の野は、ポツチエルの〈春〉やフランスのゴシックタピスリーのミル・フルール（模様）

を想わせます。そして舞妓の、やや典型的で、文楽人形を想わせるような表情、強ばった動作など、初期ルネッサンスのフレスコ画への憧憬を示す画面です。晦渋な波光には珍らしく、甘美なロマンのある作品ですが、それだけでないのは、さすが波光と言つべきでしょう。

波光は若い頃から浮世絵を好み、浮世絵のスタイルを借りた作品を試み、造詣も深いものがありませんが、この〈摘草〉での隠し味に用いられたのは、十九世紀初期から中期にかけて活躍した歌川豊広の作品〈御殿山の花見図〉ではないでしょうか。この絵は、花見と題するものの、摘草図です。母と若い娘、あるいは若い姉妹が、南に開けた江戸湾を望む堤に出で、若菜を摘む情景を描いています。波光はそれを三人の舞妓に変え、三人一セットとするヨーロツクバ絵画の定石を踏襲し、ポツチエルのロマンを採り入れて、近代に耐えうる作品に転化したのです。波光は、然し、この作品を最後に、再び晦渋な古画や仏画の世界に戻つてゆきました。より深く豊かな東洋美術の浴池が、波光の前に湛えられていたことは、言うまでもありません。

上村松篁は絵画専門学校時代に、波光の薰陶を受けた画家ですが、晩年の画伯が、思い出として語られたことが忘れられません。

当時の学校では、一年次が終ると、各学年の年次展が開かれていましたが、学生たちの提出した作品を、教官がそれぞれ優秀作を選び出し、表を向けて置いて行きました。ところが、後から見に来た波光先生が、その作品の幾つかを裏返される。それは毎年のごとく、入江先生犯人説は公然の秘密で、学生たちもそれを評価していたというお話でした。



歌川豊広筆 御殿山の花見図 19世紀初頭 東京国立博物館蔵

冷泉家と御所 (其の五)



公益財団法人冷泉家時雨亭文庫

常務理事 冷泉貴実子

江戸時代も終りに近い嘉永七年（一八五四）四月六日、御所より出火した火災は、どんどん広がっていく。

冷泉為理は三十歳、正三位左衛門督。為理はすぐに御所に駆せ参じ、孝明帝の避難のお供をする。

帝を乗せた御輿は、下鴨神社へ入る。空は煙がおおい、太陽は黄色に見える。内裏は焼亡。これでは私宅（冷泉家）もとても火災から免れることは出来ないだろう。しかし冷泉家の家業である和歌を支える品々と家内の者が無事に立ち退いただろうかと為理は不安であ

る。そこに一人の家司（家来）がやって来た。早速問うてみる。この続きを、為理卿記から見てみよう。

「いかが」と聞くに、禁中（御所）より直に來たるの間（為理と共に御所に参内し、門で置き去りにされた家来である）、家内の事知らずという。尚々心元なく（不安である）。

そのうち聖護院宮へ御立退の御沙汰（命令）あり。御列は、先ず武家が固める。内侍所（三種の神器の鏡）付きの面々、次いで非藏人、走り掛けこ

れ無し。例の体に大小也（以上は下級の公家衆。大小の刀を帯している）。次より堂上（上級の公家衆）、下臈を先として次第不同

（色々な身分の者が入り混っている）。親王、丞相（大臣）相打ち交り、後を武家が固める。武家は所司代。前の武家も同じ。

元の通を河原へ御出まし（帝の御輿だから敬語）。内侍所先ず、次いで御板戸御輿、次いで空の御車。西の空を見るに、凡そ焼亡の場所、巾五町ばかりか。西は余程西までの様子。日輪（太陽）西に傾く頃なれば、煙にて包み、恐れ多

くも色、日蝕、皆蝕のごとし。河原堤までも、何となく火気を感じ。未は如何なる事や知らず。観世音を心に念じ、供奉（お供）従う。大刀腰に差し候て、巻纒なり（冠の先に付ける纒を巻いている）。

脚は聖護院に着御する。内侍所、劍璽（三種の神器のうちの劍と璽）等同上。先ず此の上は、かく安心。

此の間、御物、御擔子の引き出し、御重唐戸、御長持凡そ三棹ばかり、追々運送す。右等皆、中居（奥向きに勤めていた女）の火方取り出し候旨。その余、御内儀、御表、議奏の言渡し、御日次（言渡しも日次も業務日誌のようなもの）等、各丸焼け也。誠に惜しむべし、恐れ入り候事共也。

南殿、清涼殿等の駒犬等（御所の建物には駒犬があるようだ）より（折々）に持ち来る。御鳳輦（帝の乗り物）は西へ持ち行くを見受け候人もこれ有るといへども、行方覚束なし。御擔子引き出し等、片は黒くくすばり也。先々、新待賢門院（孝明帝の母）、



為理卿記

敏宮、和宮（二人とも孝明帝の姉妹）等は青蓮院宮へ御立退き、准后（孝明帝の女御）、祐宮（後の明治帝）は聖護院御同所也。御機嫌よく、格別の御当りこれ無し旨、此上は恐悦恐悦。近習物語（御所で帝の近くに詰めている公卿全

員）、第一建通より一同御機嫌を伺う。本番所（同様に近くに詰めている公卿）同上の由。下鴨より運送の握り飯、或いは宮（聖護院宮）に於いて出来の汁掛け飯等、一同これを食す。火はとに角、消え難し。

此時、今一人の家来の顔を見る。家内如何と問ふに、類焼を免れ、火は西へ行き過ぐ。頓と別条無し。家内各御室皆明寺へ立退き、障り無し。始めて承り、大安心。取りあへず、観世音へ御礼申す処へ、又政順（同じく家来）よりの書中（手紙）来たるを親族壬生大夫伝へらる。

弥無事、類焼尤も免れ候旨、又々承り、重々の安心。内裏（御所）炎上は誠に申すまでもこれ無く、恐れ入り奉り候事ながら、此上は、家内免れ候事、誠に有り難き義、全く観世音の御蔭と落涙の事。

其の内、類焼の人これ有ると仰ぎ、心中気毒に察し申し候。

薄暮の頃、届けこれ無く一応退出候の処、弥、町内何の事これ無し。火は余程西へ行き過ぎ候へども、室町通に行き当り、人家屋根の上より、未だ萌える火見ゆ。恐しき事、申し尽し難し。

門は余（為理）立退き故、扉閉あり。政順、義雅、清貞（三名共家来）に出会ひ、先々無事を歡ぶ。

（次号へ続く）

柔道圓心道場
〒602-0014
京都市上京区室町通寺之内西上ル柳原北半町 210
TEL (075) 441-1968 / FAX (075) 441-2972

山崎接骨院
〒602-0898
京都市上京区烏丸通寺之内西上ル相国寺西門前町 647
TEL (075) 451-6050 / FAX (075) 451-6051
<http://www.enshin.sakura.ne.jp/>

新・古茶道美術品
清昌堂
やました

京都店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル
〒602-0061 TEL (075) 431-1366
FAX (075) 431-1370

東京店・東京都新宿区市谷甲良町1-8
〒162-0856 TEL (03) 5261-4566
FAX (03) 3235-5677



葭屋町通

葭屋町通は元誓願寺通から南へ丸太町通まで一・二キロの短い道です。しかも、この道は平安京の堀川小路と猪熊小路の間に、天正の豊臣秀吉の市街地改造により開かれた新道で、今の二条城を南へ抜けて松原通に至りました。その直後の慶長七年（一六〇二）には京都における拠点として将軍徳川家康が二条城を築きます。これにより堀川を外堀としたので丸太町

通から押小路通の間が城地となつて分断されてしまいました。以後、北の方を葭屋町通、南の方を岩上通（いわがみ）というようになり、日本園寺・西本願寺・興正寺などの寺地で途切れながら、今では塩小路通まで続きます。

葭屋町通の北端には西陣織会館があります。ここは昭和三十八年まで日蓮宗の瑞龍寺の寺地でした。この寺は村雲御所といわれた尼寺です。豊臣秀吉の姉が尼となつて日秀と号し、村雲の地に建立しましたが、近江八幡市の八幡山の頂上に移転しました。

晴明神社

元誓願寺通下るところにあるの



晴明神社

が晴明神社です。平安時代の陰陽師であった安倍晴明（九二一—一〇〇五）と倉稻魂命を祀り、その邸址と伝えられています。晴明は天文学士として、また陰陽道の始祖として数々の奇瑞が伝えられています。度重なる幕末の火災で記録が失われて由緒も不明の点が多いのは残念です。今では堀川通に面していますが、元は葭屋町通が表口でした。昭和二十年の終戦直前、空襲による延焼を防ぐた



ぼたん鍋と京料理

元祖 畑かく

京・上御霊前烏丸西

☎〇七五・四四一・六一〇代

めの強制疎開で西堀川通の両側が
広げられたことから、堀川通に入
口が開かれるところとなったので
す。境内には晴明井が残り、今も

易学の神様とされ、屋根瓦には晴
明桔梗紋という一筆書きの星形の
紋があり、陰陽道で用いる魔除け
の呪符とされています。また晴明
の銅像や、ゆかりの旧一条戻橋の
欄干の一部なども見られます。な
お社号標は富岡鉄斎の風格ある筆
になるものです。

社前には近年、武者小路千家の
千宗守家元の筆になる「千利休居
士聚楽屋敷趾」の石碑が建てら
れました。この碑陰には「晴明神
社の地は千利休宗易居士が聚楽屋
敷を構え茶事を催し茶湯に用いた



とされる井戸が現存する旧跡であ
る」と記され、利休の聚楽屋敷が
顕彰されることとなったので
す。

福大明神社

葭屋町通には福大明神町と元福
大明神町とがあります。福大明神
町は一条通下る、元福大明神町は
出水通下るにあります。名の示す
ように最初は元福大明神町に、の
ち福大明神町に「福大明神社」が
ありました。福大明神は宇迦魂うかのみたまあ
るいは白狐（稻荷神）を祀ると
か、紀貫之の霊だとか諸説があり
ます。平安時代に万里小路土御
門にあった紀貫之の宅地に社を

建て、その像
を祀ったとの
伝承もありま
す。のち九条邸
に移り、寛永
年中（一六二四
―一四四）には



元福大明神町へ、さらに寛文中
（一六六一―七三）には福大明神
町に遷座しました。今も西側の大
木家の庭内に小祠として残されて
いるとのこと。福をもたらす
神として江戸時代には崇敬されて
いました。

検非違使庁址

出水通上る西側に「平安京検非
違使庁址」の石碑があり、ここに
住まわれている平安京の研究者で
同志社女子大学（当時は花園大学）
の山田邦和教授によって説明板が
掲げられています。他では見られ
ない解説なのでそのまま転載させ
ていただきます。

「東を堀川小路（堀川通）、北を
鷹司小路（下長者町通）、西を猪
隈小路（猪熊通）、南を近衛大路
（出水通）に囲まれた範囲は、平
安京左京一条二坊七町にあたる。

歴史文字シリーズ

伝達浪漫

紀元前3000年頃。パンのシンボルが描かれ、食料配給の割り当てが記録されている。

和光印刷株式会社

〒602-0012 京都・烏丸通上御霊前上ル TEL.075-441-5408代

E-mail:info@wako-print.co.jp

平安時代前期から中期にかけ、この地は平安京の「首都警察」であった。検非違使が存在した。検

非違使は弘仁六年（八一五）頃に令外官として創設され、当初は左右両庁に分かれていたが、天暦元年（九四七）にひとつに統合された。この左京一条二坊七町の地は、もとは左衛門府の一部であったが、分割されて検非違使の庁舎の敷地に当てられた。検非違使の職掌は警察、裁判、科刑に及んでいたが、時代を経るに従ってその役割を拡張され、やがては京内の行政全般にわたる広範な権限を持つに至った。ただ、平安時代後期になると検非違使の事務は別当（長官）の私邸でおこなわれるよ

うになり、左京一条二坊七町の庁舎は廃絶したのである。

平安時代の歴史の中で、検非違使の果たした役割は限りなく大きい。この重要な史跡を後世に伝えるため、ここに顕彰碑を建立する。

平成十六年四月九日」と、公益財団法人古代学協会が建立しています。

ここから南へ下がって行くと、元福大明神町の東側に「山崎闇斎邸址」の石碑が見られます。ここには江戸時代前期の学者であった山崎闇斎（一六一八―八二）が数千人といわれる門弟に講席を開いたところ。闇斎は最初仏教を学びますが、のち朱子学に転じ、さらに吉田神道から垂加霊社という免許皆伝を受け、儒学と神道を融合した垂加神道を創唱し、幕末の思想界に大きな影響を与えました。その西側には真

敬寺があり、門前には「徳川五代将軍綱吉公御生母桂昌院殿御出家菩提寺」の石碑が建っています。

元和元年（一六一五）に僧勝賢が開基した真宗大谷派の寺院で、桂昌院が帰依したことで知られています。

また榎木町通下るには蔵林寺があります。ここは南北朝時代の貞治三年（一三六四）、南朝元号では正平十九年）に僧宗観が開基した真言宗の金剛峯寺に属する寺院で、高野山堀川別院と称しています。

さらに榎木町通との東南角には「此南 聚楽城 武家地 直江兼続屋敷跡推定地」「平安京左京二条二坊八町 春宮坊東宮町跡」の文字が彫られた新しい石碑が建てられました。その詳細については脇の説明板をお読みください。ほどなく丸太町通へ出ます。その突き当たりは長らく空地でしたが、昨年末に新しい商業施設が開店して賑わいが戻ってきました。

（出雲路敬直）

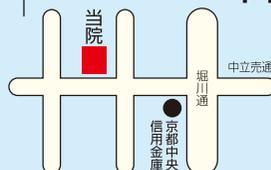


山崎闇斎邸址

耳鼻咽喉科 鈴木医院

京都市上京区中立売通堀川西入
441-0675

診察時間 午前9時～12時
午後4時半～7時半



	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	×	○	○	×
午後	○	○	○	×	○	○	×

祝休診

上質で新しい 京都ブライトンホテル



きらめくおもてなしを
あなただけのとっておきの時間で
京都ブライトンホテルで
こころゆくまでお過ごしください



京都ブライトンホテル

〒602-8071 京都市上京区新町通中立売（御所西）
TEL.075-441-4411(代) FAX.075-431-2360
<http://www.brightonhotels.co.jp/kyoto/>

上京の埋蔵文化財

上京遺跡の発掘調査

はじめに

今出川通室町西に位置する上京区総合庁舎を建て替えることになりました。この場所は上京遺跡・室町殿跡に含まれていることから、工事に先立ち、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が発掘調査を行いました。今回はその調査について説明します。

上京遺跡について

調査地は相国寺や同志社大学の西方、京都御所の北西、平安京北端の一条大路から三町分（約三六〇m）北に位置します。平安京造営時は京外でしたが、平安時代の終わり頃から京外の北方に生活域が広がり、鎌倉時代に入ると、

左京域の南北通が北へ延長されました。

上京遺跡は、禁裏（内裏）がほぼ現在の京都御所に固定された室町時代に、平安京の枠を超えてその北方に將軍家や公家の屋敷、寺院などが造られ、形成された市街地のことです。遺跡範囲は、およそ北は紫明通、南は一条通、東は寺町通、西は智恵光院通まで広がっています。

室町殿跡は、室町通に面していたことから呼ばれた邸宅で、永徳元年（一三八一）足利義満によって造営され、別名、「花の御所」とも呼ばれました。これまでの発掘調査では、庭石を配した園池の一部・柱穴・土坑・溝などが検出されています。

周辺の遺跡について

今回の調査地は、この室町通から約一町（約一二〇m）西に位置します。調査地周辺の遺跡には、東に室町殿跡、その北東には室町時代の寺院跡である相国寺旧境内や、飛鳥時代の上御霊遺跡、奈良時代以降の出雲寺跡、東にはほぼ京都御苑が範囲の公家町遺跡、西には室町時代の平城跡である本満寺の構え跡、その北には室町時代から桃山時代の新町校地遺跡があり、南には鎌倉時代から室町時代の一条室町殿跡があります。南西には平安時代の革堂跡（行願寺）があります。また、周辺には、茶道家元で知られる不審菴（表千家）庭園、今日庵（裏千家）庭園、官休庵（武者小路千家）庭園、大聖寺庭園があります。このように、周囲には飛鳥時代から江戸時代までの遺跡・名勝が数多くあります。



しみじみと 心のかよう 贈りもの

www.toraya-group.co.jp

源 とうや

Every Day 5:00~7:00pm
HAPPY HOUR
40%OFF

金曜・土曜は
4:00pmから開催!!

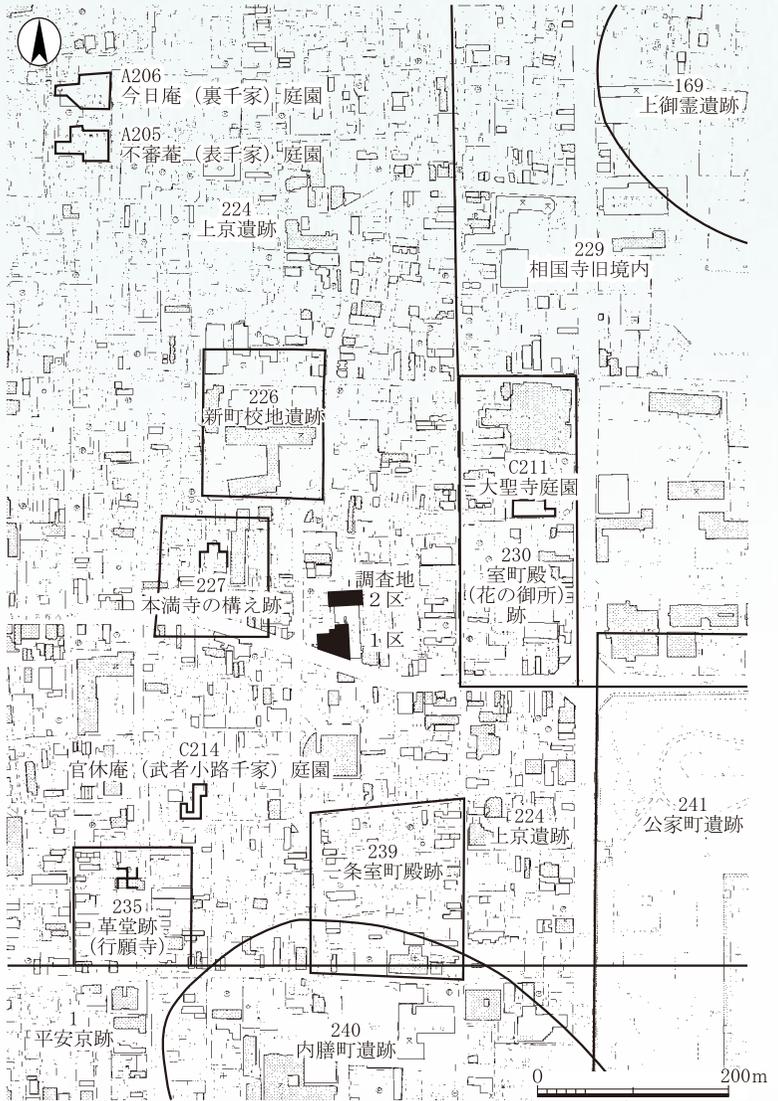
毎日17~19時はお酒が4割引!!ホテルバーのハッピーアワー!!
1F ライブラリーラウンジ・バー「ヘイヴン」では、
毎日17~19時はボトル・企画商品および喫茶メニューを除く、
すべてのドリンクを40%OFFでお楽しみいただけます。
この機会にホテルバーをお気軽にご利用ください。

ライブラリーラウンジ・バー「ヘイヴン」 Tel.075-223-8974 (直通)

地下鉄京都市役所前駅から徒歩で約1分 京都ロイヤルホテル & スパ

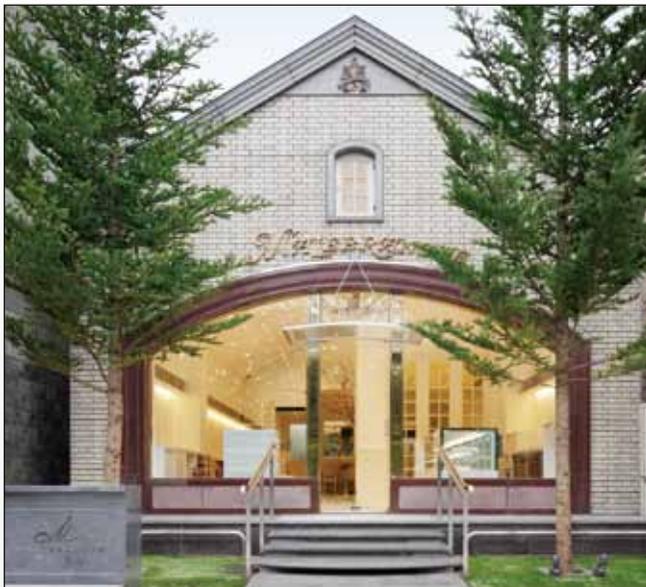
調査の成果

二〇一三年四月一日から準備作業を始め、七月十九日に終了しました。調査区は南側の1区、北側の2区に分かれます。今回の調査では、鎌倉時代、室町時代前期、室町時代後期、江戸時代初頭の遺



周辺遺跡及び調査位置図

構・遺物を検出しました。しかし、江戸時代の中期以降の石室や井戸、江戸時代初頭の大規模なゴミ穴が多く、そのために室町時代の遺構の残りは悪く、建物などは復元できませんでした。1区では地表下一・二mの標高約五三・七mで第一面の江戸時代初頭の遺構、地表下約一・四mで第二面の桃山時代の遺構、地表下約一・六mで第三面の室町時代から鎌倉時代の遺構を検出しました。調査



Malebranche
MALEBRANCHE
京都 北山

洋菓子

マールブランシュ 北山本店

〒603-8053 京都市北区北山通植物園北門前
TEL (075)722-3399・FAX (075)702-9440
9:00AM~9:00PM 年中無休(喫茶10:00AM~8:30PM)
<http://www.malebranche.co.jp/>



1区 作業風景・多数の大きな土坑(西から)

代の古い順に紹介します。

鎌倉時代の遺構

今回の調査では、数は少ないのですが、鎌倉時代の土坑や柱穴を発見し、鎌倉時代の遺物を採取しました。土坑は当時のゴミ捨て穴と考えています。土坑は直径約二m、深さ約二・四mありました。堅くしまった砂礫の地盤を掘り下げており、元々は井戸だったと考えています。その井戸が使われな

くなり、ゴミ捨て穴として利用されたのでしょうか。埋めた土には鎌倉時代の土師器皿がたくさん混じっていました。そのほかに、柱が沈まないように根石を据えた柱などがありました。建物としてはまとまりませんが、室町時代の土坑より古い鎌倉時代に、住民が生活していたことが分かりました。これらの遺構・遺物から、調査地から東北方向の相国寺旧境内遺跡などだけでなく、調査地周辺でも、鎌倉時代から人々が生活していたことが明らかとなりました。

室町時代前期の遺構

土坑や柱列・柱穴を発見しました。土坑は東西二・五m、南北二・三m以上、深さ一・八mありました。埋土は黒褐色砂泥に礫や炭が混入し、室町時代の遺物が混じっていました。別の土坑は東西約二・八m、南北約一・一m、深さは〇・八mあり、室町時代前

期の土師器皿が密集して出土しました。また、溝状に掘って柱を据えた跡を見つけました。塀や柵を作っていたものと考えています。

室町時代末期の京都の様子を描く『洛中洛外図屏風』(上杉本)では、室町殿やその西方に入江殿・近衛殿の建物が描かれ、調査地付近に建物が描かれています。室町殿に近い地点であり、有力武将の建物があったと考えられます。

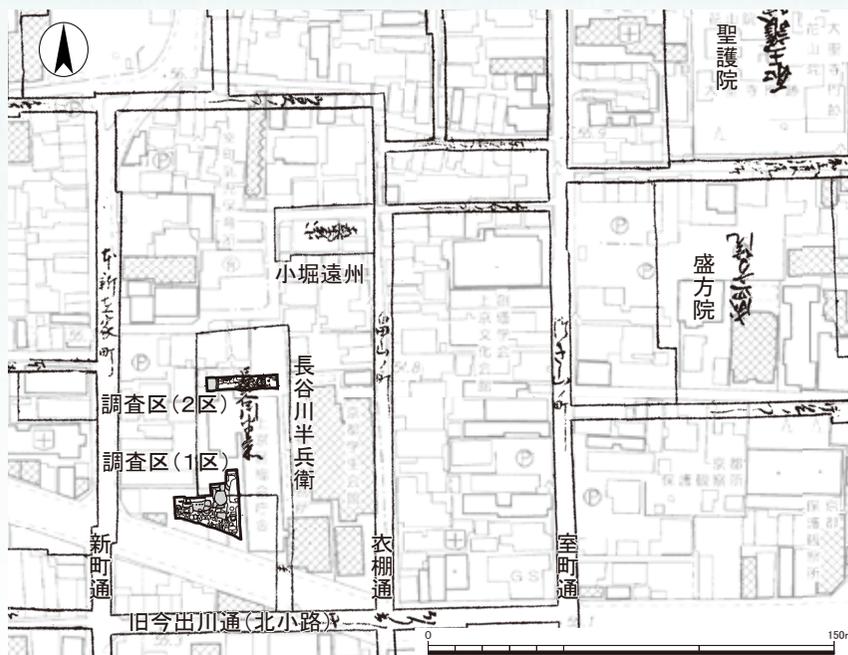


2区 二条の溝(北から)

室町時代後期の遺構

石室、土坑、柱列、柱穴、溝などがあり、室町時代後期の遺物が出土しました。石室は東西一・二m以上、南北一・三m以上、深さ〇・三mあります。ひとかかえほどの石の長軸を石室壁面沿いに積み上げ、二段残存します。土坑は東西三m、南北五m、深さ〇・七mあります。埋土は、黒褐色から暗褐色砂泥です。柱列は南北方向の柱列で、柱穴は直径〇・四〜〇・六m、深さ〇・一〜〇・三m、一辺〇・二mの根石状の石が入っているものもあり、柱と柱の間は一・五mあります。敷地境界の柵と考えられ、この境界線は、現代の境界線とほぼ一致しており、区画が現代まで引き継がれていることが分かりました。

二条の溝(写真)は南北方向の溝で2区の調査区東部で発見しました。西側の溝は幅一・一〜一・四m、深さ〇・六m、東側の溝も



同規模で、ともに南北約四・五mを検出し、調査区外の南と北に延びます。埋土は暗褐色から黒褐色砂泥が主体で黄褐色砂泥ブロックが混じります。埋土の状況などから、空堀と考えられます。上部

江戸時代初頭の遺構

火災処理と考えられる土坑（写真）を多く発見しました。その中でも大規模なものは、1区に五基、2区に一基あり、規模は一辺一

が削平されているため、先後関係は不明で、併存していた可能性もあります。

応仁・文明の乱以降、京都は戦乱が絶えず、「構え」と呼ばれる防御用の堀や堀が多く作られました。今回発見した二条の南北溝は中世の構えに関連する堀と考えられます。

五m、深さ〇・八〜二・五mあります。土坑からは炭・焼土・焼けた壁土・多量の土師器皿・陶磁器類・瓦類が出土しました。これらは火災後処理のための土坑と考えられています。

一六四五〜一六五九年頃の京都を描いたとされる『洛中絵図 寛永後萬治前』を現在の地図に重ねると、1区は通りに面した町屋列に位置し、1区北部と2区は旧今出川通から通路のある奥まった敷地にある長谷川半兵衛宅になります。その宅地の大きさから、ある程度高い地位の武家と考えられます。西側は現在の新町通、南側は旧今出川通（北小路）、東側は衣棚通に囲まれますが、調査地は、各通りから奥まった場所に位置します。このことから、調査地は当時の通りに面していた町屋の奥に位置する空闲地になっており、建物などはなかったと考えられます。

文献史料によれば、桃山時代から江戸時代前期の上京域では大火



志野向付

の記録が三件あります。一五七三年の織田信長による上京焼き討ちで約六千軒焼失、一六二〇年二月には計約三千軒焼失、一六七三年には約五千軒焼失の記録があります。この中で、一六二〇年の大火記録が出土遺物の年代と一致します。大日本史料の中の「土御門泰重卿記」「孝亮宿禰日次記」「日本耶蘇會年報」などには、「元和六年（一六二〇）（旧曆）二月から三月（現代の四月）にかけて、放火によって新町から出火。相国寺の建物や御所八幡町（現在の烏丸今出川上る西側の大聖寺付近）にあった聖護院や（調査地の）堀出



絵唐津大皿

シ町など、上京域で約二千軒が焼失。(旧暦)三月四日には放火が約千軒焼失。その後も放火が続く。「キリシタンに放火の罪をかぶせる動きがあった」などの記載があります。

このように、土器編年による年代が文献資料の大火記録に裏付けられ、他の出土遺物の年代もほぼ確定できたことは大きな成果です。

また、1区のそれぞれの土坑から出土した土器の破片点数の割合では、土師器類は七四〇九二%を

占め、瓦器類の他に、施釉陶器は四〜七%、焼締陶器三〜一%、輸入陶磁器一〜三%を占めます。

土師器の大部分は皿で、その一部に、灯明皿に使用して煤が付着したものがああります。皿以外には焼塩壺と蓋・炮烙があり、瓦質鍋・鉢・蓋・瓦燈などもあります。施釉陶器には瀬戸・美濃産や唐津産・京都産の碗・皿・向付(写真)

などがあり、底面に墨書が書かれたものもあります。焼締陶器には信楽産・丹波産・備前産の播鉢・鉢・甕・盤などがあります。輸入陶磁器には中国産の青花碗・皿、朝鮮産白磁皿・陶器皿、ベトナム産青花碗などがあります。

武家屋敷に位置する2区土坑は一六二〇年の大火を契機に掘削されたと考えます。土坑の最下層からは、板材や箸などとともに炭化した米・大麦・粟・山椒が出土しています。これは火事で蔵が燃え、炭化した米などを廃棄したと考えられます。南側の町屋跡で出土し

た遺物と比べると、武家屋敷跡からは、絵唐津大皿(写真)、青花大皿片、磁器の摘みなど大振りなものや輸入赤絵製品があり、豪華な遺物が出土しています。また、出土遺物破片数の割合は、1区の土坑と異なり、土師器の割合は約七二%、焼締陶器は約二%と低く、施釉陶器が約一四%、輸入陶磁器が約五%と、1区の土坑より輸入陶磁器の比率が高いことが分かりました。町屋と武家屋敷の違いが現れているものと考えられます。

室町時代の遺跡として知られる上京遺跡は、鎌倉時代の遺構・遺物が発見され、平安時代の遺物も混入していることから、鎌倉時代から平安時代まで時代が遡ることが考えられます。そして、上京の人々の生活は、室町時代から江戸時代初頭に引き継がれ、柱列などの地割は、現代まで引き継がれていることが分かりました。

(公財)京都市埋蔵文化財研究所(尾藤徳行)

尾藤徳行

尾藤徳行

永年の信用
まごころのご奉仕

葬祭センター

公益社

本社/京都市中京区烏丸通三条下ル ☎(075)221-4000
フリーダイヤル ☎0120-00-4200 <http://www.koekisha-kyoto.com>

◆ 葬儀式場 ◆

- 北プライトホール (堀川紫明) 京都市北区紫明通堀川東入ル ☎(075)414-0420
- 中央プライトホール (玉条大和路) 京都市東山区玉条通大和路 ☎(075)551-5555
- 南プライトホール (堀川八条) 京都市南区堀川通八条下ル ☎(075)662-0042
- 西プライトホール (玉条西大路) 京都市右京区玉条通西大路西入ル ☎(075)322-0042
- 山科プライトホール (玉条外環) 京都市山科区玉条通外環状線東入ル ☎(075)595-0042
- 烏丸プライトホール (因幡薬師) 京都市下京区烏丸高辻南入東入 ☎(075)351-7724
- 宇治プライトホール (宇治横島) 宇治市横島町(京都文教大学前) ☎(0774)20-0042
- 滋賀プライトホール (大津) 大津市朝日が丘1丁目 ☎(077)523-0042



上京区民ふれあい文化大学

「上京区民ふれあい文化大学」が昨年11月30日にホテルルビノ京都堀川で開催され、斎藤英喜佛教学大学教授が20年ぶりに執り行われた伊勢神宮の式年遷宮について講演を行いました。参加者は式年遷宮の様子を映像で見ながら、古代から脈々と続く伝統行事にふれ、文化に親しむ機会となりました。



「みんなで花を咲かそう」活動

区役所庁舎入口に置かれたプランターには季節の草花が植えられ、ボランティアの皆さんが、毎日きれいに手入れをされて、来庁される方の目を楽かせています。昨年11月9日には一斉に植え替えを行い、冬の装いとなりました。

上京区民ふれあい史蹟ウォーキング



昨年11月25日、秋晴れの下「上京区民ふれあい史蹟ウォーキング」が開催されました。今回は、北野天満宮をスタートし、平野神社や龍安寺などを巡り、仁和寺をゴールとするコースを歩きました。参加者は史蹟の説明を聴きながら、紅葉真っ盛りの中気持ちよくウォーキングを楽しみました。



上京新能

第49回「上京新能」が、昨年9月20日に白峯神宮で開催されました。第一部では各社中による演目が披露され、火入れ式の後、第二部では箏演奏「比良」、仕舞「笠之段」、狂言「飛越」、能「天鼓」などが上演されました。来場者は、夕闇の中かがり火に照らされた幽玄の世界に魅了されました。

上京区民ふれあいまつり2013



「上京区民ふれあいまつり2013」が、昨年10月27日西陣中央小学校で開催されました。好天の下、各学区・団体による模擬店や各コーナー、特設ステージは、多くの来場者でにぎわい、子どもからお年寄りまでが楽しくふれあう一日となりました。



上京茶会

秋の「上京茶会」が、昨年11月10日北野天満宮明月舎にて裏千家による懸釜で開催されました。朝からあいにくの肌寒い雨が降る天気となりましたが、色づき始めた紅葉がしっとり濡れ、風情のある一服のお茶を味わっていただくひとときとなりました。

宴会・婚礼・会議
宿泊・レストラン

あじわい

¥5,000(税別)

ホテル

ルビノ京都堀川

〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町
TEL 075-432-6161(代) FAX 075-432-6160
<http://www.rubino.gr.jp/>



レストラン

11:30~14:00

毎週日曜日はお得な
ランチバイキングを
しております

おひとり

¥1,500(税込)

「上京・史蹟と文化」は上京区役所地域力推進室まちづくり推進担当で販売致しております。(TEL 441-5040)
また、上京区役所のホームページで御覧いただけます。

<http://www.hanakobo.co.jp>

フリーダイヤル 0120-46-8700



大切な方への御供えのお花、お誕生日、御祝のお花、
結婚式のブーケなど心に残る記念日を
お花で彩るお手伝いをさせていただきます。

花工房 京都本店 京都市上京区丸丸通今出川下ル
TEL 075-414-8700 FAX 075-414-7787



- 神学部
- 文学部
- 社会学部
- 法学部
- 経済学部
- 商学部
- 政策学部
- 文化情報学部
- 理工学部
- 生命医科学部
- スポーツ健康科学部
- 心理学部
- グローバル・コミュニケーション学部
- グローバル地域文化学部



Doshisha University
同志社大学
<http://www.doshisha.ac.jp/>

お問合せ先 同志社大学 企画部 広報室 広報課 TEL:(075)251-3120

酢一筋の商い、伝統の滋味。

伝統から未来へ
京・西陣 孝太郎の酢
(有) 林孝太郎造酢

京都市上京区新町寺ノ内上ル東入道正町455
TEL (075) 451-2071
FAX (075) 451-8028



創立以来八十年に
わたって、
和やかな家庭的な
雰囲気にもまれつつ
就学前教育の
本流をめざして、
保育を続けて
参りました。
幼児たちは
楽しい遊びを通して、
人生に必要な生きる
力のすべてを手に入れます。

学校法人 **北野幼稚園**

京都市上京区御前通一条下る (北野天満宮バス停下車南100m)
TEL.463-0111(代)
http://homepage3.nifty.com/kyotokitano_k/



名物どうぶ
南禅寺 JUNSEI

左京区南禅寺門前 電話 075-761-2311
<http://www.to-fu.co.jp>

洛和会丸太町病院

新築移転しました



【予約フリーダイヤル】
0120(489)244 075(801)0351
〒604-8401 京都市中京区七本松通丸太町上ル

救急対応 24時間365日 内科・外科救急 カテーテル・内視鏡対応	耳鼻科救急 月～金 午後7時～午後11時	
<small> 新築設備取得済 509001 認定取得 病院機能評価取得 Ver.4.0認定 2017年度優良企業認定事業主 KESスタッフ2階増 </small>	URL▶ http://www.rakuwa.or.jp/ らくわかい <input type="button" value="検索"/>	

ミサワホームイング

リフォームをお考えの方に

ミサワホームの設計基準に基づき、建物の安全性や耐久性を損なうことなく
性能・機能・デザインをグレードアップします。

ご希望のカタログをお電話でお申込ください。

複数選択可



1 住まいのメンテナンス編



2 屋根・外壁リフォーム



3 水廻りリフォーム



4 ECOリフォーム



5 高齢者対応 (ユニバーサルデザイン)



6 外構・造園リフォーム



7 ホームイング実例集



8 ミサワホーム総合カタログ

MISAWA 住まいを楽しくするおつきあひ
ミサワホームイング近畿 京都営業部
〒601-0022 京都市中京区家町通御池上る御池之町323 075(211)3241

■お申込はこちら

0120-330-351
火・水曜日 定休 受付時間 AM10:00～PM6:30



上京 史蹟と文化